

久邇ガバナー年度に入りあっと言う間に5か月が経過した。これまで、広報活動そして広報の在り方などにつき地区ホームページで報告してきた。第2750地区の各クラブは、それぞれの地域の特異性を出して奉仕活動を展開している。また、その活動が年々拡大し、地域の中で大きな貢献を果たす結果を生み始めている。そこで、今回は、一部のクラブでの事例をあげ紹介してみる。

東京成城新RCのケースから紹介してみる。同クラブの奉仕活動は、野菜作りをテーマにした。今、都会の子供達は、土をいじるという機会がほとんどない、というのが実情だ。校庭も狭く更にコンクリートのところもある。最近ようやく芝生に変えるケースも増えているが、時代にマッチ奉仕活動の一例と言えよう。

まず、ロータリーの年度内に収穫ができることを念頭にし、しかも、失敗のない収穫物ということで「じゃがいもづくり」に決め、プロジェクトをスタート。参加者には、種イモの植え付け、育成、収穫まで一連の作業を体験し、自然の力強さを肌で感じてもらうことにした。

社会福祉法人福音寮の子供達、世田谷区立飛鳥山福祉園の子供達及び祖師谷国際交流会館の留学セと家族の3団体が参加した。3月の種の植え付けから始まり、4-5月の追肥、土寄せ、6月下旬の収穫と言ったスケジュールを組み実行した。畑は、地元の上祖師谷にロータリー畑を作り実施したわけだ。一回の奉仕活動と違い、約半月にわたるプロジェクトであり、作業も大変だったが大きな成果を得、大成功の活動だったと言える。

次に紹介するのは、東京蒲田RCの奉仕活動。これは、大田区が実施している「OTAふれあいフェスタ」に参加したプロジェクトで、大田区最大のイベントである。11月7日(土)と8日(日)の2日間。今回で20回目と言う。昨年の来場者が26万人というからその規模は、想像できよう。会場は、平和島公園、平和の森公園、平和島競艇場の3か所で行われた。

同クラブでは、その平和島競艇場内の「水のエリア」に出展ブースを確保し、広報活動を行った。その会場は、フェスタバザールをはじめJAL、ANAといった大企業も出展し、連日、沢山人で賑わった。パネルを10枚作成し、これまでの活動や写真それにロータリーの4つのテスト、米山奨学生・交換留学生、ロータリーの基本活動等を展示し、円形広場のブースでPRした。

また、無料バルーン教室を開催し、高足の大道芸人やバルーンのパフォーマーを呼び、会場を盛り上げた。バルーンには、ロータリーのマークと「四つのテスト」デザインした丸いタグを付け配布。東京蒲田RC独自で制作した小冊子「手に手をつないで」も来場者に配布した。教室は、時間を決め8回行い親子連れが大勢参加し、動物の作成等の体験を実施した。さらに、京浜グループ各クラブのバナーを貼り、グループ全体の広報も行った。

東京蒲田RCの笠原広報・IT委員長は、「ロータリーをPRすることで、効果は計り知れないものがあつた。本当によかつた」と感想を述べ、地域社会との連携が広報活動に必要なだと痛感したことを話していた。この活動には、会員の奉仕活動が大きかつた。予算を大幅に抑え、たとえば、電気、内装、看板等会員の企業が手弁当で協力したり、互いの持っているノウハウが生かされたプロジェクトとして大成功した事例と言えよう。さすが「もの造り」地区のロータリーの典型であろう。



広報活動といっても色々な方法がある。今回紹介した東京成城新RCの「独立型」それに東京蒲田RCの「参加型」更にケースは、あらゆることが考えられるが、会員同士の親睦がこうした大きな奉仕活動につながっていく事例として紹介させていただきわけである。これからも、他の事例を紹介できたらと思っている。

【記：広報委員会 副委員長 酒向 俊爾(東京南RC)】

